

茶話

SAWA

日本茶インストラクター
協会熊本県支部会報
平成20年2月23日発行
第18号

今年も開催 茶商協とのコラボ事業

参加75名に会員多数で対応

先月19日今年で二回目となる消費者を集めて行なう茶商協とのコラボ事業が開催されました。午前中は郷土史家の徳永さんを招き、お茶の歴史を熊本県の歴史との関わり交え、肥後古流の生い立ちなど貴重な講演をいただきました。そして午後の部がメインの日本茶講座となりました。午後の講座については班長の寺本さんより報告をいただいております。

寺本浩明

活動報告

今回、県支部、県茶商協、県経済連茶生産流通協議会の三者によるコラボ事業「熊本のおいしいお茶とお菓子を楽しむ会」を開催しました。公告の効果により当初予定を大幅に上回る75名程の講座となりました。午前の講演会の都合もあり、会員の皆さんには朝早くからお手伝いいただきました。

講座の内容は、まず開懐世利

(かわせり)六菓匠の職人さんによるお菓子の話と実演。それに、私が熊本のお茶の話とお茶の淹れ方を説明、川上さんによる出品茶の説明と実際に出品茶を飲んでもらいました。各テーブルには一名以上の会員が担当し、コミュニケーションをとりながらお茶を楽しんでいたということになりました。

参加者の皆さんは、出品茶の濃厚な旨味に驚かれ、マンツーマンのような形での日本茶講座となり、充実した時間を過ごされた様子でした。協力いただきました皆様様に心よりお礼申し上げます。

ただ、今回のイベントにおいて、ご迷惑をお掛けした点が多々ありました。まず、イベントの開始時間が、私の考えや公告の時刻と会員に周知したものと30分のずれがあったので、会場での混乱につながってしまっただけです。そして、翌日の熊本新聞の扱いが期待を裏切られ、さらに主催が経済連となっていた点などでした。実際いつ取材がな

されたのかわからず、もう少し会場内に気を配っておくべきでした。私の配慮が足りず、ご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。



二次試験対策講座実施

先月、支部主催のインストラクター二次試験対策講座が開催されました。10月の入門インストラクター講座も合わせ、対策講座は県内外を問わずインストラクターを目指す受験生に、支部を上げ応援しようというものです。毎年、受験生から「講座を開いていただけてよかった」との言葉が寄せられています。

では、報告を特集さんよりいただきます。

狩集由美

活動報告

1月13日に熊本市健軍で行い、今年4名の方が受講されました。

インストラクターになるために、皆さん一回以上(ちなみに私は一回(苦笑))二次試験に臨まれたことでしょうか。茶関係の仕事は一切関わっていません。私には、「二次試験」はとてもしびやかな試験であり、「対策講座」は本当にありがたかったことを思い出します。

二次試験としては、蒸茶茶期仕上茶品質、茶種、内質鑑定とインストラクション実技があります。対策講座では、順にその方法や対策について説明します。市川さん、小山さん、坂本さんの4名のマンツーマン?体制で受講者の納得がいくまでやりま。実技試験のサンプルで実施行いますので、受講者自身の鑑定の「ブレ」がここで修正できるのが利点です。但し、鹿児島みたいに照明施設等きちんとした会場でないのが残念ですが、雰囲気等は理解してもらったと思っています。

私は、この対策講座が受験者には必要だと思っているのですが、ぜひ他のインストの方も新たなインストラクター誕生のためにも参加をお願いします。後継育成も重要なことじゃないでしょうか。ぜひ2月3日の二次試験には、全員合格!を願っています。

今回受講された四名は、合格されました。対策講座を開いた甲斐があったようです。

近代産業遺産

茶の輸出が盛んであった明治の頃、九州や四国に沢山あったヤマチャが利用され、ヤマチャを活用して茶園が造られました。茶の収穫は、生産性を向上させるために手摘みからハサミ摘み、それから機械摘みへと、併せて茶樹の仕立て方も株仕立てから畝仕立てへと変化してきました。今日、茶園は畝仕立てが一般的であり、株仕立てや園茶化されたヤマチャを見ることはほとんどありません。園茶化されたヤマチャは、茶業の近代化の中で消えていった生産形態であること、だから私は「近代産業遺産」として考えています。

写真は昨年10月20日に撮影した五木村九折瀬(つづらせ)の茶園です(「茶話4号」参照)。川辺川ダムに関連する道路工事で、秋整枝がなされていないばかりか茶園の一部が無くなっていました。このような園茶化されたヤマチャは、茶業の変遷を今に伝える貴重な財産、失ってしまえば取り返しがつきません。



インスタ豆知識 こんなあったらいい 「アイデア茶器」

しれませんが、色々便利な道具を考えてみるとお茶を何処でも手軽に楽しんでもらえそうな気がするのですが…。



会員短信

お茶と私

古田久美

ホツと一息とはこうゆう時間

を言つのだと思います。

「水を流すと綺麗になる湯呑などなど。」「コーヒーマーカー」ならぬ「ティーメーカー」なんかどうでしょう。すでにどなたか作り出されているものもあるかも

なぜか二年間は、缶の中に紙が入っているの？

ティタイム

昔から高級缶詰めの代名詞カニ缶。今は比較的に手頃な価格で売られているお店もあります。とはいえなかなか食べられるものではないですね。でも缶を開けるとなぜか他の缶詰と違い、中に紙が入っていますよね。これなぜかご存知？

じつはこれ「硫酸紙(りゅうさんし)」とよばれる紙で、カニ肉の色が缶の鉄分と反応して変色するのを防ぐ働きがあるので。ちよつと驚きですよ。カニ缶だけに、高級感を出すための伊達なのだろうと思つていた方、物知りを気取って教えてあげましょう。でも知つたかぶりと思われないうちにね。

18年、ホツと一息を満喫したことがない。

今は、スーパーやコンビニのペットボトルのお茶コーナーには数え切れない程の種類が並んでいて選ぶのにも大変なくらいです。手軽で便利なペットボトルが好まれるのは当然ですが、急須から湯呑に注ぎ入れる瞬間が私にとって至福の時なのです。

お茶の時期、来店されるお客様は必ずといっていい程『いい香り！』と工場から漂う新茶の香りに感激されます。毎日そこに暮らしている私たちには気付かないことですが、周りの方からは羨ましいと言われて少しいい気分になれるのです。森林浴ならぬお茶の葉浴！ですかね？

「お茶にする」という言葉は休む、一息つくことを意味する。そのお茶に囲まれている幸せを日頃感懐する暇もなければ、余裕もない。そのためにも日本茶インストラクターの資格を取り、より深く茶の知識を身につけたいと思つのですが、これもまたなかなか…。今年はい言訳をやめて楽しんでトライしたいと思つ次第です。お客様と接する際にもまた自分のためにも役に立つ知識を出来るだけ吸収していきたいと思つ。『画家ミレーの名言に』人間にとって一番大切なことは、各自の仕事に進歩を求めて励むことだ』とある。まさにその通り！自分の実力の

不十分さを知り前向きに努力しましょう！毎日、子供の世話家事、仕事で自分自身の事を考える暇がありませんでしたが、原稿依頼を受けて久々に自分の事を振り返ることが出来たように思いました。

情熱行動熊本発信

野田 仁

向春の候、皆様は新茶に向けお忙しい事と思います。

今年是全国茶品評会が15年ぶりに開催されますが、昨今の大会は「茶業界だけの大会ではないか？」との声があります。関係者だけで品質の優劣や順位、茶機械展示を含めたイベントなど、関係者だけが満足する内向きの大会ではないでしょうか？視線を変え外からお茶の周辺を眺めてみますと、利便性追求商品、特定保健飲料などの付加価値商品が台頭し、連日流される「コマーシャルの影響から今までの常識とは違う価値観へ向かうのではないかと危惧されてなりません。

こつこつ問題点を正面から見据えたとき、打開策のひとつとして全国大会を利用し消費者から見た日本茶のもつ良さを積極的にアピールしながら、多くの方に体験参加してもらつ施策、また大会を一過性の消化事業で終わらせるのではなく、継続的に取り組む姿勢を伝えていくこ

とが重要ではないかと思ひます。熊本では各人がそれぞれの組織で活躍されていますが、一つ一つは立派な組織でも残念ながら潜在能力が充分発揮されていないように思われます。可能性を秘めた個々の組織を点から面にすることにより全体の底上げに繋がるのではないのでしょうか。

また、熊本の茶業界が一枚岩となつて活動することにより、他所に出来ない高品質のモノ作り、安全安心への取り組み、これまでにない斬新な商品の創造、開発などの情報を全国に向け発信し続けることで、茶業界に新しい展開が生まれるのではないかと思ひます。今度の全国大会をぜひとも型にはまらない魁的な取り組みで開催され、茶業界の起爆剤になることを期待します。最後に日本食文化の一翼を担う日本茶がこれからも明るい未来でありますよう信じて、私も力いっぱい精進して参りたいと思ひます。

次回の短信は、野村美咲さんと岩永祐治さんの予定です。

《編集後記》 今回の原稿の集まりの早さにびっくり！そこで編集長を驚かせようと私も頑張つて…みたもののいつもと変わらず。遅かったのは私のせい？「メモリ入り急須」これを見た時、これはイグノーベル賞モノだと。思いつきや意外な発想があるといいなへ繋がります。